岡山大学教育実践総合センター紀要，第6巻（2006），pp.119-129

原　著

カンザス州（米国）で見たスクールカウンセラーの活躍；小学校編

青木多寿子（岡山大学教育学部）

カンザス州の学校では、複数の心理系専門職が学校教育に関わっている。その中でスクールカウンセラーは学校に常駐で勤務している。ではスクールカウンセラーは、学校でどのような仕事をしているのだろうか。本稿は資料とインタビューに基づいて、小学校のスクールカウンセラーの仕事を具体的に紹介した。例えばスクールカウンセラー達は州のカリキュラムに沿って、全生徒に対して人格・社会性の発達支援領域、教育・学習支援領域、キャリア発達支援領域など、3領域の発達支援をしていた。その際、適切な効果を上げるため、地域、他の教育機関との連携役、保護者の支援、教師の支援、などを行っていた。スクールカウンセラーの仕事は一見とても多様に見える。しかし、子ども達が社会に適応してゆくことを支援する専門家だと考えると、複雑な仕事内容も理解しやすいことが伺えた。

Key Words：スクールカウンセラー、州のガイドライン、社会性の発達支援、教育・学習支援、キャリア発達支援領域

Ⅰ．はじめに

1998年から2001年まで、数度にわたり、アメリカ、カンザス州の学校を訪問する機会を得た。その際、学校で働く数名のスクールカウンセラーとお話しする機会、スクールカウンセラーが活躍する姿を見る機会があった。そこで本稿では、アメリカで見たスクールカウンセラー（学校心理士）たちの現地での活躍を紹介する。

アメリカの教育は、州によって、都市によって、学区によってシステムは大きく異なる。テキストやカリキュラムだけでなく、入学する年齢、義務教育の修業年限、修学形態なども違っている。スクールカウンセラーの役割も地域や学区によってかなり違う。したがって、ここで紹介するのは、カンザス州の2つの学区の例であり、アメリカ全体の話しではないことをまずご理解いただきたい。

私が訪問したのはカンザス州の学区で、全米でも教育熱心な人の集まる学力の高い学区である。教育システムがかなりうまくいっていることは、学区が毎年発表するデータに示されている。1999年~2000年のこの地域の7年生から12年生までのドロップアウト率は0.7%と極めて低く、毎日学校に通っている子どもたちの割合は96.8%と極めて高い。アメリカでは高校入試がない。つまり、全員入学なのにほとんど退学者がいないということである。これはすごいことではなかろうか。加えて、教員の修士号以上の学位所得者が68.4%と、これも驚くべき高い数字となっている。

このように訪問した学区は教育がうまくいっている州である。従って、ここに紹介する学校は、国際学力テストの得点が日本より低いアメリカ、多民族国家ゆえの低学力に悩むアメリカ、というアメリカの教育に関するステレオタイプは、この学区には余り当てはまらないことを述べておきたい。

Ⅱ．スクールカウンセラーに関する私の誤解

私が渡米した頃、日本では日本教育心理学会で学校心理士の認定資格が実際に動き始めたころであった。臨床心理学が専門ではない私は、日本で言う「カウンセラー」とアメリカの学校に常駐する「スクールカウンセラー」は同じものだと思っていた。当時の私の発想では、この2種類のカウンセラーの違いと言えば、ただ単に、カウンセラーが教育現場に出向き、学校でカウンセリングを行うから、スクールカウンセラーと呼ばれるのだと考えていた。このため、私がカンザスでみたスクールカウンセラーの働き方はまさに驚きの連続だった。調べてみると、訪問した学区の学校に常駐するスクールカウンセラーたちは、不登校、問題行動を持つ生徒など、一部の児童・生徒と深く関わることはクリニカル・カウンセラー（病院臨床心理士）その他の力を借り、学校の子どもたち全員が「社会」へ適応できるよう支援

していたことがわかった。

Ⅲ．公立学校における心理職の専門家たち

私が見た学区では、３種類の心理系専門職スタッフがチームで仕事をして児童・生徒を支援していた。その専門職の人たちとは、サイコロジスト、スクールカウンセラー（学校心理士）、クリニカル・カウンセラー（臨床心理士）である。もう少し詳しく、これらの仕事について紹介する。

まず学校に常駐するのはスクールカウンセラーである。このスクールカウンセラーは小学校に一人、中学校には２人（男性と女性）配置されていた。中高になると、学校の規模によって 3,4 人のスクールカウンセラーのいる所もあった。私がお会いした３人のスクールカウンセラーは、いずれも教師経験者で、教員に就職した後、大学院に進学して資格を取ってスクールカウンセラーになったとのことだった。

スクールカウンセラーは、学校では教師とは違う役割を担っており、他の教師のように、自分が担当するクラスを持っていない。したがって、スクールカウンセラーとしての自分の仕事に専心していた。このスクールカウンセラーの仕事内容、特に小学校のスクールカウンセラーの仕事内容については後で紹介する。

もう一人の専門職、それはスクールサイコロジストである。中学校には１人、小学校にはパートのスクールサイコロジストが勤務していた。小学校の学校紹介によると、スクールサイコロジストの仕事は次のように紹介されている[1]。「子どもと子どもの家族は、いつでもスクールカウンセラーとサイコロジストのサービスを受けることができます。子どもさんにカウンセリングが必要だと思われたら、いつでも学校にお電話ください。私たちのサイコロジストは州の資格を持っており、市販のほとんどの心理テスト、学力テストを行うことができます。本当にテストが必要な子どもたちには、テスト料は無料です。学校外でテストを受けようと考えているときには、その前にサイコロジストに電話でご相談ください」。この紹介文を見ると、サイコロジストは心理テスト、学業テストなど評価の専門家であろうと推測できる。

また、スクールサイコロジストは子どもたちの学業成績、出席状況、今までの担任の名前、特記事項など子どもたちに関するデータを幼稚園年長組から高校まで統一したフォーマットで管理していた。部外者へは非公開となっているサイコロジストたちが保管しているファイルの形式を Fig. 1～3 に示す[2]。

この書式を見ればわかるが、幼稚園から高校までの担任の氏名、学業成績、統一テストの結果、その他を記録するようになっている。

名　前

住所　　電話　　緊急連絡先

〒　　県　　市・郡　　誕生日

****

通学校

小学校　　通った時期

中学校　　通った時期

高校　　通った時期

記録を見る人のサイン	肩書き	目的	日時

ブルーバレー統合学区　　オーバーランドパーク市　カンザス州

Fig. 1　個人の記録ファイル（第１面）

幼稚園:
S-とても優れたスキル
I-スキルの成果が一定していない
T-スキルを発達させるのにもっと時間が
HN-家庭での支援が必要
X-まだこのスキルを導入していない

1,2,3年生	4,5年生
E-優れている	A-優れている 90%+
S-満足できる	B-平均以上 80-89%
N-改善が必要	C-平均 70-79%
U-不十分	D-平均以下 60-69%
NA-まだ適切でない	U-不十分 0-59%

面談

日時	誰と	教師	コメント

年度														
入学月日														
学年														
教師														
学校														
セメスター	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
準備性														
リーディング														
改善(　　)														
言語(作文)														
スペリング														
算数														
社会														
科学/保健														
芸術														
音楽/声楽														
バンド/管弦楽														
特殊なサービス														
会話														
LD														
才能教育														
OT/APE														
在籍した日数														
欠席した日数														
出席日数														
次の学年														

Fig.2　個人の記録ファイル（第２面；内側）

特別なサービスのためのテスト

学年	日時	テスト

写真

幼稚園	2年生
4年生	現在

小学校のテスト結果

Fig.3　個人の記録ファイル（第３面；内側）

（注）これは、Ａ３サイズを二つ折りにしたファイルの内側、外側、計４面に印刷されたファイルの３面を訳したものである。残りの１面には中学校の教科ごとの担当者の名前と成績を学年別に記す欄がある。

これらのデータは、全生徒分が保管されている。生徒に何か問題が生じたら、これらのデータに基づいて、教師、カウンセラー、保護者と一緒に対策を考えるのである。このデータを見れば、問題を起こした子どもの今までの経緯がわかり、子ども達の以前の様子を知っている人々とすばやく連絡が取れ、子どもの問題行動へ援助するプランを立てやすくなる。日本で全校生徒のデータを継続的に保管してい

る職種としては保健室の養護教諭があげられる。養護教諭も、健康状態に関する個人のデータを保管することで、子どもの身体的な健康管理に勤めている。それと同じように、学業に関するデータや心理テストについてのデータ、各学年の担任やその連絡先を、幼稚園年長組からすべて、しっかり保管しているのである。日本の場合、カンザスのような資料の保管がなされていないと聞いている。このため、転校生が入ってきたとき、過去の状況が把握しにくく、連絡先もよくわからないので、その児童・生徒の様子が普段と違っていることに気づきにくいと現場の先生に伺ったことがある。ある種の資料を同じ形式で引き継ぐことは、保健室の健康に関する資料同様、子どもたちの問題行動をいち早く見つけ、問題が大きくなる前に、いち早く、的確な対応を取るのに役立つのではなかろうか。

最後の専門職は、週に１，２度巡回訪問してくるクリニカル・カウンセラー（臨床心理士）である。この専門家は、問題を抱えた子どもに対して専門的なケアを行う。このように考えると日本でいうスクールカウンセラーとは、カンザスで言うクリニカル・カウンセラーに近いのではないかと感じる。

このように、私にはカンザスのスクールカウンセラーの働き方は、日本のカウンセラーとかなり違っているように思えた。日本のカウンセラーとは、カンザスでは３人で分業しているものを一人で担当しているような職種なのではなかろうか。

Ⅳ．スクールカウンセラーの仕事

では、３種類の心理専門職の分業連携チームワーク体制の中で、スクールカウンセラーはどのような役割を果たしているのだろうか。

この学区では、学区の教育委員会がスクールカウンセラーの仕事内容を明確化し、州の基準に基づいて「スクールカウンセリング」プログラムを作っていた。このスクールカウンセリング・プログラムをTable 1に示す[3]。

カンザス州のスクールカウンセリング・プログラムは主として３つの領域から成り立っている。それは、「人格・社会性の発達支援（Personal & Social Development）」「教育・学習支援（Educational Development）」「キャリア発達教育支援（Career Development）」である。また、このTable 1の内容を達成するために学区が設けている具体的な目標（幼稚園から中学校３年生まで活用；ブルーバレー学区の場合）を資料１、学年別に設定されたカリキュラム（シャウニーミッション学区の場合）を資料２に示す[4),5)]。

Table 1　カンザス州スクールカウンセリング・プログラムの目標とガイドライン（1997年）

1.0	**人格・社会性の発達支援領域**
1.1.	肯定的で積極的な自己概念の発達
1.2.	効果的な意志決定
1.3.	健康的な選択
1.4.	他者への敬意を示す
1.5.	対人関係のスキルを発達させる
1.6.	自己や他者への責任意識
2.0	**教育・学習支援領域**
2.1.	効果的な学習スキルを用いる
2.2.	学習目標を設定し、実行する
2.3.	学習することが役に立つことを理解する
3.0	**キャリア発達支援領域**
3.1.	仕事に対して前向きに取り組む姿勢を発達させる
3.2.	キャリア発達に関する情報を用いるスキルを発達させる
3.3.	キャリア発達を決定するスキルを発達させる
3.4.	生涯の生活で、役割の変化があることに気づきと理解を発達させる
3.5.	仕事を探すスキルを発達させる

Ⅴ．スクールカウンセラーの仕事の実際；小学校編

私がスクールカウンセラーの仕事内容をよく知らない頃、小学校のスクールカウンセラーの先生と、二度ほど仕事内容についてお話を伺う機会があった。それによると、「教師の相談、保護者の相談、クリニカル・カウセラー（問題行動の個人面談をするカウンセラー）、その他の外部の連携役」という答えが返ってきた。カウンセラーとは、児童や保護者の相談に乗るものだと考えていた私には、「教師の相談」という答えに心底驚いた。しかし、よくお伺いしてみると次のようなことだった。ある先生のクラスにやる気の無い児童、うまく関係が作れない生徒などがいた場合、その先生の授業に参加して、一緒に対応策を考えたり、よい指導法を紹介したり、他の機関と連携した方がいい場合はそちらに連絡する、という形で教師を支援するとのことだった。

この答えをお聞きして、目から鱗が落ちる思いがした。確かに、支援が必要なのは、生徒だけでなく、教師も同じであるに違いない。アメリカには日本以上に多様な子どもたちがいる。だから、一人の教師の力量だけでは太刀打ちできないことも多いことは容易に想像できる。しかし、日本の子どもたちも多様なのではなかろうか。授業がうまく行かなかった

とき、ある子どもをよい関係が作れないとき、それが自分のやり方の問題なのか、生徒との文化的背景の違いなのか、心理テストでしっかり検査して対応を考えた方がよい問題なのか、保管しているデータを基に一緒に考え、アドバイスしてくれ、必要があれば他の機関と連携するパイプ役をしてくれる専門家は日本にも必要なのではないだろうか、と感じた。

資料３に、シャウニー・ミッション学区が小学校の保護者向けに作成しているスクールカウンセラーの仕事の紹介に関するパンフレットの全訳を示す[6]。これを見ると、(2)には全生徒の必要に応える、(6)にはグループカウンセリングを行うとかかれている。(5)(7)には、教育関係諸機関との連携役であることも記載されている。これらのことから、学校に常駐するスクールカウンセラーは、教師が教科を担当するのに対して、生徒が社会に適応してゆけるよう社会性、人格の発達を教師をも支援しながらサポートしているのではないかと考えられる。

子どもは、最初の段階では「家庭」という単位で育つ。しかしやがては「社会」の一員となり、仕事を持って働き、社会の一端を担って活躍することになる。子どもが家庭から境に巣立ってゆくプロセスの中で、「学校」が社会と家庭の溝を埋める役割を果たすことが期待できる。また、学校をこのように位置づけると、学校には「学力を付ける」という側面以外のもう一つの機能があることになる。それは社会に適応できるスキルを身につける場所となる。社会に適応するスキルは家庭の中だけでは育みにくいにちがいない。そのようなとき、学校は家庭という小さな単位の外側にあり、かつ、社会という大きな文化の内側にある。つまり、家庭と社会の中間にあることになり、この「学校」組織の特性を生かせば、社会性の獲得はより効率的になることが期待できよう。学校には多くの仲間もいる。社会的組織の一部でもある。このように考えると、スクールカウンセラーの仕事は、一見、多様に見えるが、他者と関わる社会的スキルを身につけ、社会人として活躍できるだけの学力を身につけ、社会で自立できるキャリアを発達させる力の獲得を支援する専門職であろうと解釈できるように思えた。

また資料３に示した内容を達成するため、スクールカウンセラーは生徒に対しても授業を行っていた。授業の頻度は全校生徒に対して８週間ごとに１クラス 20~25 分ということであった。私が尋ねたときには、ライフスキルトレーニングの授業に取り組んでおられた。ライフスキルトレーニングとは、社会的スキル、アサーションスキル、 コミュニケーション・スキルなどの対人関係のスキルだけでなく、メディアの影響、麻薬、たばこの害など、生活全般についてどのように対応すればよいかを練習するものである。訪問した小学校が使っていたテキストの目次を Table 2 に示す[7]。

Table 2 ライフスキルトレーニング(4/5 年生用)内容

(1) 教師のための背景知識
(2) 意志決定
(3) たばこ
(4) 広告
(5) ストレス対処法
(6) コミュニケーション・スキル
(7) ソーシャル・スキル
(8) アサーション

（注）中学生用には、上記の他に、メディアの影響、不安の対処法、怒りの対処法、葛藤の解決、仲間の圧力を跳ね返す、などが加わる。

Table 1 のガイドラインにもあるように、アメリカは、小学校からキャリア発達支援教育に力を入れており、そのキャリア発達支援教育もスクールカウンセラーの仕事の大きな柱の一つとなっている。

そこで私が実際に体験した小学校での教育をいくつか紹介する。まず一つは、平日に学校ではなく、親の職場について行って親の仕事を手伝う職場体験の日（子どもたち全員行く必要はなく、希望者だけが参加する。希望しないものは普通に学校に来てもよい）があった。近年、日本でも職業体験が行われている。しかし、聞くところによると、希望通りに行かないことが多いそうだ。また、選択肢も必ずしも多くないという。この点、この学区の場合、「親」の職場について行ってお手伝いをするというのがとてもよいと感じた。なぜ良いのか・・・。第一に、親の働く姿を見ることができる。第二に、親のお手伝いを通して、社会の中で自分ができることもあることを自覚できる。そしてなによりも、最も身近な大人を通して社会を知ることができる。身近な大人を基地としたキャリア教育は、小学生にはピッタリのキャリア教育ではないかと感じた。

加えてカンザス州では、子どもたちに職場を見せる機会を作ることに地域全体で力を入れていることが伺えた。親の職場訪問の日、知人が勤めていたカンザス大学の大学病院でも、子どもたちを何グループかに分けて、大学病院の中を紹介する企画がなされていたという。親の職場だけでなく、他の職場も

希望すれば見る・参加できるのである。教育の一環という観点で、地域ぐるみで子どもたちに、将来活躍できる多様な職種があることを体験させる。たとえその頻度は年に一回であっても、子どもたちは自分の親たちの世界だけでなく、多様な世界を少しずつ、少しずつ広げてゆけると私は感じた。たった年に1回である。日本の職場も、もっと、子どもたちに解放し、お手伝いをさせる日をつくっても良いのではなかろうか。

もう一つ見たのは、地域ぐるみの取り組みというよりは、地域の企業と連携した取り組みである。それはハンバーガー店で働く、という職業体験であった。この小学校とハンバーガーショップとの連携は、日本人の発想を覆すおもしろいものであった。まず学校が「Kind Kids」というA4一枚程度の絵入りの絵日記形式の文章を募集する。この作文のご褒美がハンバーガーショップの「キャリア発達体験」となっていた。

Fig. 4　児童が描いたKind Kids(1)

Fig. 5　児童が描いたKind Kids(2)

私は友人から「娘が特別店員をやるので一緒にハンバーガーを食べに行こう」と誘って頂いた。行ってみると、放課後であるにもかかわらず、スクールカウンセラーの方がハンバーガーショップにおられた。スクールカウンセラーは、店の一角に子どもたちが書いた「Kind Kids」の紙を貼り(Fig.4,5,7)、子どもたちに特別店員の名札を作り、ハンバーガーショップ内に、担当のテーブル（4個程度）を割り当て、一人40分程度のローテーションを組んでいた。私が店に着いたとき、スクールカウンセラーは集まった子どもたちに仕事の手順を説明していた。子どもたちが給仕するテーブルは、ほとんど保護者で埋まっていた。

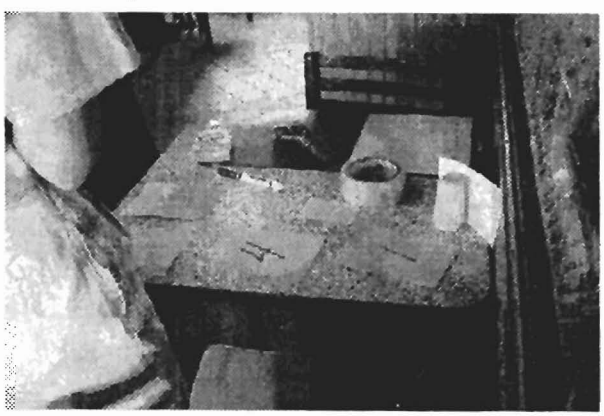

Fig. 6　テーブル割り当ての準備をするスクールカウンセラー

子どもたちは店員になった気分で、テーブルを拭き、注文を取ってハンバーガーを届ける（Fig.7)。子どもが懸命にやっているのを見るとつい親も注文する。子どもに最後にハンバーガーと飲み物を無料で支給されるが、保護者の方は子どもの姿を見ようと、家族全員、友人も誘ってハンバーガー店に出向く。おかげで店は大盛況。この結果、子ども達は自分の書いたKind Kidsに囲まれて、誇りを持ってキャリア体験ができ、ハンバーガー店は売り上げが

Fig. 7　担当テーブルの仕事をする児童

上がる。おまけにハンバーガー店は多くの人に「子どもに親切な店」という印象まで与えることができる。

"Kind Kids"という子どもが書いた文章もとても興味深いものだった。学校の先生への感謝も見られたが、外で遊んでいたときに怪我して手当てしてくれた近所のおばさん、ベビーシッターをしてくれる方、いつも学校の行き帰りに声をかけてくれる地域の人など、多くの方への感謝が述べられていた。大人もこれを読んで、自分のちょっとした行動が感謝されているのを知ると、嬉しくなってもっと子ども達に親切にするに違いない。子ども達は親や教師だけでなく、実に多様な大人に守られている。このような行事で、子ども達も、周囲の大人も、互いの感謝の気持ちに気づくことができれば、多くの人の心が豊かになるような気がした。

近年、日本では子ども達の社会性が低下しつつあると言われている。加えて少子化も進行している。少子化とは、子ども達の遊び仲間の数とサイズが小さくなることでもある。このように考えると、子ども達の社会性や社会に適応する力を育むには、今までの子ども任せの方法では不十分なのかもしれない。カンザスでのスクールカウンセラーの活躍を見て、私は日本の学校にも、カンザス州のスクールカウンセラーのような子どもたちがドロップアウトせず、社会に適応してゆくことを支援するカリキュラムや専門家が必要なのかもしれないと感じるようになった。

参考資料

1)Tomahawk Ridge Elementary School. "Shooting for the stars!" Everyday. 1998~1999.
2)Blue Valley Unified School District, "Permanent Record Folder."
3)Elementary Guidance Curriculum. Kansas, 1997.
4)Students Outcomes; Elementary, Blue Valley Learners Goals.
5)Elementary Guidance Curriculums; Scope and Sequence.
6)What everyone should know about the elementary school counselor?" A script graphic booklet by Channing, L. Bete Co., INC. South Deerfield, MA,, 1982.
7)Life Skills Training: Promoting Health and Personal Development, Level Two; Grades4/5". Botvin, G. J. 1998.

Title: What the elementary school counselors do in Kansas City?

Tazuko AOKI (Faculty of Education Okayama University)

KeyWords; School Counselor, Elementary Guidance Curriculum, Personal Social Domain, Educational Domain, Career Domain

---

資料１：学習者のゴール（幼稚園～高校３年生用；ブルーバレー学区）

①ゴール；問題解決ができる。自分ならできるという気持ちを持つ。	領域；学習と評価	目標；効果的な学習と評価のストラテジーを当てはめることができるようになる。
基準点	・主張と協同のスキル（the relationship and demonstrate organizational skills）、時間を管理するスキル、学習スキル、テストのための準備勉強スキルを意識すること。 ・クラスの中で適切な質問を含め、積極的に事実を集めて、そして利用可能な資源を利用して主張するスキル。 ・テーマの中で、個人的に得意なことと不得意なことを吟味すること。	
②ゴール；複雑な問題解決ができる。	領域；意志決定	目標；効果的な意志決定ができるようになる。
基準点	・意志決定のプロセスについて、スモールステップに気づき、実行してみる。 ・自分の選択の結果について、短期と長期の可能性について考え、評価することができる。 ・意志決定に影響する要因について吟味する。	
③ゴール；情報を入手する。	領域；キャリア選択と教育選択	目標；教育的なプロセスと仕事での生活の発達には関係があることを理解する
基準点	・仕事の世界の中で、さまざまなキャリアと教育的な経験がいかに関連しているかについて検討する。 ・どの学習には、長期間のプロセスが必要かについて、方法を記述する。	
④ゴール；自己管理に関し「できる」という意識を持つ	領域；自己についての知識とキャリア選択	目標；個人的なスキル、興味、キャリア選択の優先順位を統合できるようになる
基準点	・自分にとっても他者にとっても働くことは大切であることを説明できる。 ・個人的な態度、優先順位、能力、仕事に必要なスキルの関係について説明できる。 ・将来のための多くの仕事のグループを知っており、それらのキャリア業の情報を得るためにつかう資源を見つける。	
⑤ゴール；自己を管理して複雑な問題解決に取り組み、よき解決者になる	領域；ゴールを設定し、プランを立てる	目標；教育的、キャリア発達的なプランについて、ゴールを設定し、発展させ、定期的に考え直すことができる。
基準点	・長期、短期の個人的目標を含め、キャリア的生活の試案を作り、その目標への段階的なプランを発展させる。 ・現在の、またはやってみたい（潜在的）、教育的、キャリア的、そして余暇の興味を発展させるゆとりのあるコースの選択、活動を選ぶことができる。	
⑥ゴール；自己管理ができそうだと思うこと	領域；責任感	目標；決定、個人的、または学業的な日常の活動について責任を持つことができる
基準点	・学校内外で、自分の決定や活動の結果について、喜んで責任を持って受け入れる気持ちを育てる。 ・他者による統制ではなく、自己統制に信頼をおく気持ちを育てる。 ・個人的なこと、学校のことについて、どこに行けば援助を得られるかを知る。	
⑦ゴール；チームに貢献するメンバーになる自己管理の可能性を持つ	領域；変化と喪失を管理する	目標；変化や喪失に出会っても効果的に対処する方略を応用できる
基準点	・変化、喪失、深い悲しみのプロセスに関連した感情と思考について説明できる。 ・変化、喪失について健康的な反応と、非健康的な反応について比較し、自分でできる負けない方法、癒しの方法に気付く。	
⑧ゴール；自己管理できるという気持ちを育てる。	領域；自己の気づきと成功への態度の形成	目標；自分の帰属、人の帰属とその結果について分析できるようになり、積極的な態度を育て、維持させ、高める。
基準点	・自分と他者に関係する考え方、感情、行為の間の関係に気づき、説明することができる。 ・自分にしかない良さと弱さに気付き、他者のそれらについても気づくことができる。 ・個人的な必要と関心があるときには、適切な学校とコミュニティの資源を見つけ、利用することができる。 ・自分にとってプラスになる役割モデルとその人達の個人的な特性を吟味できる。	
⑨ゴール；責任感ある市民 & チームに貢献できるメンバーになること	領域；他者への敬意と応答	目標；目前の環境、多文化社会の中で人々の間の個性、多様性に敬意を示すことができるようになる。
基準点	・個々人はどのように違っているのか、文化の違いは環境の多様さに貢献できることを正しく認識し、理解を示すことができる。 ・ステレオタイプ、バイアス、偏見とはどんなことかがわかっており、相互に尊敬できる関係を作ることができる態度を見いだすことができる。	
⑩ゴール；上手な対話ができ、チームに貢献できるメンバーになる。	領域；人間関係に関わるスキルとそのプロセス	目標；対話、協同作業、葛藤の解決を通して、効果的な関係を発展させ、維持することができる
基準点	・人と人との間で生じる対話、個人内での対話が効果的にできるスキルを実践する。 ・自分にとってよい仲間の圧力には適切に対応し、必要なときにはアサーティブなスキル（no と言う技術）を取ることができる。 ・問題解決の効果的なテクニックを実行できる。	

資料２：小学校のガイダンス・カリキュラム；領域と順序（シャウニー・ミッション学区）

	社会性	教育	キャリア
幼稚園	感情/長所を伸ばす/健康的な生活/ 他者への礼節/友人関係スキル/自立性/ 安全感覚/マナー/肯定的な自己概念	学びを楽しむ 話をよく聞く	仕事に対する積極的態度 職業への気づき 一緒に働くことへ価値を見いだす
1年生	長所を伸ばす 肯定的、否定的なメッセージ 個性の尊重/健康的な選択 他者への礼節/友人関係スキル 他者のプライバシーを守る 自己や他者への責任/肯定的な自己概念	学びを楽しむ 効果的な話し方、聞き方 学習の重要性	仕事に対する積極的態度 職業への気づき 一緒に働くことへ価値を見いだす
2年生	肯定的な自己概念 失敗しても大丈夫/個性の尊重 効果的な意志決定と結果 自己や他者への責任	学びを楽しむ 効果的な話し方、聞き方 学習の重要性	仕事に対する積極的態度 職業への気づき 一緒に働くことへ価値を見いだす
3年生	長所を伸ばす/個性の尊重 効果的な意志決定と結果 健康的な選択/友人関係スキル 葛藤の解決/自己や他者への責任 肯定的な自己概念	効果的な学習スキル 学習のための良い習慣 長所を伸ばす 目標を定める	仕事に対する積極的態度 職業への気づき 一緒に働くことへ価値を見いだす
4年生	長所を伸ばす 効果的な意志決定と結果 友人一仲間関係のスキル 葛藤の解決 自己や他者への責任 肯定的な自己概念	効果的な学習スキル 学習のための良い習慣 長所を伸ばす 目標を定める	仕事に対する積極的態度 職業への気づき 一緒に働くことへ価値を見いだす
5年生	効果的な意志決定と結果 友人一仲間関係のスキル 葛藤の解決 自己や他者への責任 偏見 家族関係	効果的な学習スキル 学習のための良い習慣 長所を伸ばす 目標を定める テストの勉強の仕方 課題と時間の計画の立て方 仕事に就くのに必要な教育 という考え方	仕事に対する積極的態度 職業への気づき 職業情報の使い方 自分の長所と興味への気づき 他者と一緒に働く際の態度とスキル 生活上の役割の変化
6年生	効果的な意志決定と結果 友人関係スキル 葛藤の解決 自己や他者への責任 偏見 家族関係	効果的な学習スキル 学習のための良い習慣 長所を伸ばす 目標を定める テストの勉強の仕方 課題と時間の計画の立て方 仕事に就くのに必要な教育 という考え方	仕事に対する積極的態度 職業への気づき 職業情報の使い方 自分の長所と興味への気づき 生活上の役割の変化

（注）これらは「目安」であり、必ずしも全部を取り上げる必要はなく、生徒の様子、状況によって変えてよいと記されている。

資料３：スクールカウンセラーに関するパンフレット（シャウニー・ミッション学区）

・カンザス州シャウニーミッション学区のスクールカウンセラーの仕事について、保護者向けにイラスト入りで紹介された文章の全訳を示す。

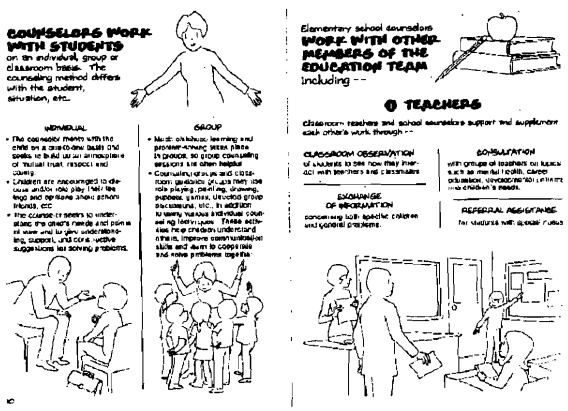

Fig.8. 保護者向けパンフレット（(6),(7)のページ）

(1) 小学校のスクールカウンセラーってどんな人？

・**小学校でガイダンスをする専門家。ガイダンスとは、子どもたちが勉強、人間性、社会性を育むのを助けること**；小学校のスクールカウンセラーは、子どもたちのために可能な限り最も良い資源とサービスを提供します。このために、保護者、教師、教育委員会、その他の専門家たちと密接に連携して働く専門家です。

(2) 小学校のスクールカウンセラーは、生徒全員の必要に応えます。

・カウンセラーは生徒をこのように援助します。

・**学校でよりよくなるように**

1) 自分についてよいイメージを持てるように。

2) 友達と良い関係が築けるように。

3) 勉強、家族、社会を信頼できる感覚が育つように

＊スクールカウンセラーの仕事をよく理解すれば、あなたはスクールカウンセラーの恩恵をより得ることができるでしょう。

(3) スクールカウンセラーの仕事は、子どもたちの多様性と同じくらい多様です。例えば、どんな仕事があるかというと・・・・。

・生涯役立つ**コミュニケーション・スキルを発達させるよう援助します。**

カウンセラーは、子どもたちが教師や保護者、友達と言葉を選んで話をするように励まします。

・**生徒の問題を早く見つけることができるように援助します。**

子どもたちの発達が滞るのには多くの要因が考えられます。カウンセラーは、勉強の問題から精神面の問題、その他まで、全般的に援助します。カウンセラーは、大きな問題になる前に、問題を解決しようとします。

・**学校で成功経験を体験するのを助けます。**

学校が好きで、勉強に積極的な態度を持つ児童は中学校、高校、大学、社会人になって、チャレンジする人になりやすくなります。

・学級での活動、仲間関係、先生との関係などで**適切な行動が取れるようになるよう援助します。**

安心して学習活動に参加できる子は新しいことに集中でき、間違えても気まずい思いをすることなく、学校を最大限に活用できます。

・生徒が、各自、確信を深めるような、**次の興味あるものを示します。**

今日では、子どもたちは「読み書き算数」以上のものが求められています。小学校の段階でのゴールは、生涯を通じて自分は重要だと思える自信を持てるように助けることです

・**子どもの教育に、保護者を含めることです**：保護者とカウンセラーは一緒に仕事をします。子どもたちは、学校よりも家庭で援助や励ましを受ける頻度が多いのです。

(4) 小学校のスクールカウンセラーのゴールには、次のようなことが含まれています。

・**児童が自分自身を理解し、他者を理解することを助ける**；そして家族、地域などの中での役割を理解するように助けます。児童は、興味を持っているものやこと、他者に感謝し、すごいと評価している自分の気持ちを、言葉や態度で表現するように教えられます。

・予防的カウンセリングのプログラムを通して、学習へのストレスの早期発見、学校適応の問題などで、**問題が大きくなるのを防ぎます。**

・**特別支援が必要な子どもたちに必要な支援を明確にします**；虐待、発達遅滞、才能のある子など、小学校のスクールカウンセラーは、すべての子どもの必要性に援助しようと努めます。

・おのおのの子どもの能力、長所、短所、情緒的、または知的な必要性に基づいて**性格的な問題の発達を支援します。**

・**キャリア発達に関する教育を提供します**；生徒が、自分自身の得意なスキルに気づくように仕向け、仕事の世界について教えます。

・仲間や先生との問題、個人的な問題、家族の問題、または児童を幸福でない状態にするような**危機の乗り越える提案をします。**

・保護者以外の他者（ソーシャルワーカー、心理学者、専門家、地域の関係者など）、教師、そして行政の**努力をつないだり、促進したりします。**

＊小学校のスクールカウンセリングは、多彩な領域です。カウンセラーは、これらの目的を達成するため、最新の方法、最近の傾向、資料などをそろえています。

(5) 小学校のスクールカウンセラーは、学校や地域で多くの重要な仕事を行っています。

たとえば・・・；

・**カウンセリング**；教師、保護者、行政、そして他の専門家と資源、プログラム、個人、または家族の問題などについて相談します。

・**話を聞く**；生徒の言い分を聞くため、そして教師、カリキュラム、規則についての生徒の関心を聞き、葛藤を解決するのを助けます。

・**保護者の支援**；学業成績を伸ばし、社会的、情緒的力を伸

ばす方法を理解できるように援助します。
・児童や保護者に、**必要があるときには家族支援サービス、精神的健康、または身体的健康へのサービス、宗教組織などを紹介**します。
・**カリキュラムの発展**；コースやプログラムが生徒のニーズや学習スタイルに合うように、カリキュラムを見直し、変更を提案します。
・**テストの結果を説明する**；生徒や保護者が、テストに関する適切な情報を理解し、利用するのを助けます。
・**教育**；児童の行動を取り上げ、生じる結果について教えます。このとき場合によっては取る行為を選択する際に、選ぶこと、行為を変えることを促すことも含まれます。
・**発行**；プログラムやイベントの広報を通して、多くの人が利益を得ることができるようにします。

(6) カウンセラーは児童と一緒に仕事をします。時には個別に、時にはグループで、クラスで生徒と一緒に仕事をします。カウンセラーの方法は、生徒や状況によって違います。

（個別に）・カウンセラーは生徒と個人面接で、相互の信頼関係を保った暖かい雰囲気で児童に会います。
・児童は、学校や友達について話をし、自分の感情や意見をロールプレイで述べるように励まされます。
・カウンセラーは、児童に必要なもの、児童の見解を理解しようと努め、問題の解決のために理解を示し、サポートをし、建設的な提案を行います。

（グループで）・児童期に生じる学びや問題解決は多くの場合、グループの中で生じます。ですから、グループで行うカウンセリングはとても有益である場合が多いのです。
・カウンセリング・グループやクラスのグループで、話し合いをした後に遊んだり、絵を描いたり、人形劇をやったり、ゲームをしたりすることがあります。その中に様々なカウンセリングの技術が使われます。これらの活動は、児童が他者を知るきっかけとなり、コミュニケーション・スキルを磨く機会となり、他者と協力することを学び、他者と一緒に問題に取り組んで解決するきっかけとなります。

(7) 小学校のスクールカウンセラーは、教育関係者の他のメンバーとも一緒に働きます。それは・・・

①教師です。学級担任とスクールカウンセラーは、次のような場面で互いに助け合います。
・教室の観察；生徒がどのように先生やクラスの仲間と関わっているか、観察します。
・コンサルテーション（相談）；精神的健康、進路指導、発達上の特徴、生徒への支援などについて、教師たちの相談を受けます。
・照会援助；特別支援の必要な子どもたちのために、援助します。

②教育関係者

（行政関係者）；教育委員会、校長、カリキュラム担当者など、教育に関するすべての人たちの支援を得ることは、子どもにとってよいプログラムを作成するのに重要なことです。

カウンセラーは、次のような場面で、教育行政関係者と連携しています。
・学校警察（学校警備員）の巡回、監視のスケジュール設定
・テストの手配を整えること
・学校のプログラムを評価すること
・児童の能力、児童に必要な支援を評価すること
・ガイダンス・プログラムを適切に行うために、行政の情報を得ること

③保護者；保護者へのカウンセリングは、小学校のスクールカウンセラーの重要な仕事の一つです。連携することにより、保護者とカウンセラーは、児童の能力、ゴール、行為、好きなこと嫌いなこと、などを共有することができます。このことを通して、カウンセラーと保護者は、児童の長所、短所、必要なこと、ゴールなどについて、安定して情報を共有できます。一緒に、子どもを支援するプランを立てることができるのです。

(7) ガイダンス活動には、次のようなことが含まれます。
・情報と方法についての意見交換するために**保護者と教師と対談**
・家庭教育の効果を上げる方法を教えるために、保護者グループの活動やワークショップ
・幼稚園児の診断とオリエンテーションのセミナー
・個々人の子ども用に作られた協同的なプランについて意見交換する。このための特別支援の必要な子どもたちの親のためのプログラム

(8) 小学校のスクールカウンセラーには、どうしたら会えるの？
・子どもさんの担任、または校長先生に尋ねてください。小学校を訪問してください。
・子どもさんのカウンセラーに電話してください。それから訪問時間の約束をしてください。
・子どもさんについて、次のような話ができるでしょう。学校への態度、学校の成績の伸び、人格的・情緒的な発達、他の生徒との関係、教師への態度、家庭環境の変化に対する反応、兄弟関係。
・さらに、カウンセラーはあなたがどのように生徒を支援できるかについて、特別な提案ができるかもしれません。；たとえば、学校にもっと適応させるには？子どものスキルを発達させるには？情報を集めて決定する方法は？仕事の世界に興味を持たせるには？などです。

カウンセラーは、先生、保護者、そして他の人と連携して仕事をしています。
・長い就学期間の初期の段階で、実りある学習経験を積むことができるように。
・将来の成功や達成のための基礎を作ることができるように。

あなたの学校のスクールカウンセラーと知り合いになりましょう。あなたの支援と私たちとの協同作業で、子どもさんの学校生活は実り豊かな経験にすることができます。

＊子どものカウンセラーに会うのに、特別な理由は必要ありません。
ですから・・・小学校のスクールカウンセラーは、子どもたちが学校から最大限のものを学べるように、すべての子どもを支援しようとしています。